

①みなくち自治振興会避難訓練

去る6月23日に実施された「みなくち自治振興会による大規模避難訓練」取材しました。この日は大雨により野洲川の氾濫や土砂災害も起こり得る危険があるとの想定で、午前8時20分に避難準備が、同8時25分に避難勧告、同8時30分に避難指示が出され、直ちに避難所へ避難を始めるというものでした。

またこの日は、新たに運用が始まった5段階の警戒レベルの放送も併せて行われ、警戒レベル3の避難準備情報から同レベル4の避難勧告へと被害想定が大きくなり、屋内、屋外放送が流れると、指定緊急避難場所の水口小学校グラウンドに住民が避難しました。

グラウンドでは、実際の災害を想定し、新割りから火おこし、防災保存食を食べてみるという訓練で、参加者は、「音声放送端末機からの放送を聴いてから避難を始めました。こうした経験から実際の災害に



▲新割り体験をする子どもたち



▲災害時に使用する保存食も配布された避難訓練



▲グラウンドに集まる参加者

備えたいです。」また、「避難の場合には近所づきあいが大切だと思うので、普段から意識していきたいです。」とおっしゃっていました。

②災害時要支援者支援計画(個別計画)の作成を!

この計画は、市が作成している「甲賀市避難行動要支援者名簿」のうち、個人情報提供に同意された方の名簿である「甲賀市避難行動要支援者同意者名簿」に掲載されている方の中から、特に避難が困難な方に対し一人一人にあわせて、「災害時に誰が避難を支援するのか」との経路で避難するのか」などを示したもので、昨年度から区長・自治会長等のご協力をいただき作成に取り組んでいただいているものです。

過去の災害において、犠牲になられた地域の大半が要支援者の個別計画が未作成または作成はしていたが未活用であったという事例から、それらの教訓を生かすことを目的に、7月3日、甲賀市民生委員児童委員協議会連合会障がい者部会の研修会が開催されました。

この日、昨年度に貴生川地域で区長会長としても活躍された伴野敬一さんから、自身の虫生野区での取り組みが報告されました。同区では現在「避

難行動要支援者名簿」に掲載されている116人のうち、「同意者名簿」への掲載は64人。作成までの経過について伴野さんは「当初は有事の際の支援体制もなく、まずは自主防災組織を作ることから始めました。そこで、要支援者への支援や個別計画の作成について話し合いました。支援者の把握や名簿掲載への同意には民生委員児童委員や組長等の協力があったり作成できたものです。」と話されました。

災害発生時、大きな被害を免れた地域のほとんどは、日頃から地域のつながりを作り上げていた地域といえます。普段から顔を合わせたら挨拶をする、声をかけてみるのも支援のひとつです。

災害時こそ『共助』のちから

こうした個別計画の作成を通して、地域がつながりみんなが助け合える、そんなまちづくりに「オール甲賀」で取り組みましょう。



◀個別計画や、地域コミュニティの大切さについて話す伴野さん

個別計画の作成状況
(令和元年6月末現在)
完成 28地域
作成中 25地域

※甲賀市地域防災計画に定める高齢者、障がい者及び要介護者などの「避難行動要支援者」の避難支援等を実施するための基礎となる名簿

作成についての説明会も受付中!! 問合せ 福祉医療政策課 ☎69-2155 ☎63-4085

避難時にはこれも便利!

日頃から避難時の持ち出し品をリュックなどに準備されている方も多いと思います。入れておく便利なものをいくつか紹介します。

- ラップ(筒に巻きつけたもの)
避難所では水が不足します。皿にラップをかけることで食べた後に、ラップを捨てるだけで水洗いする必要がありません。
- タオル(フェイスタオルなど)
首に巻けば寒さ対策になり、また怪我をした時の包帯替わりにもなります。
- 大小のポリ袋
小さい袋は防水用の袋として、大きい袋は、雨具や防寒のための服にもなります。
- トイレトペーパー
コンパクトで紙の量も多く、ティッシュ代わりや手を拭いたりと多用途です。



防災豆知識 ②

「雨量と災害発生」

予測の図

テレビで「1時間に80ミリ以上の猛烈な雨が予想されます」と報道されることがあります。これは、表によると大規模な災害が発生する可能性があるということです。情報を入手した場合、これまで以上に警戒するとともに、今後の情報に一段と注意してください。

1時間あたりの雨量	災害の発生予測
10ミリ~20ミリ	長く続くときは注意が必要
20ミリ~30ミリ	側溝や下水、小さな川があふれ、小規模の崖崩れ
30ミリ~50ミリ	山・崖崩れが起きやすくなる
50ミリ~80ミリ	マンホールから水が噴出、土石流が起こりやすい
80ミリ以上	大規模な災害が発生する、嚴重な警戒が必要

防災豆知識 ③

「大雨、台風時」避難時の長靴は×

理由は靴の中に水が入ってしまった場合、重く思うように歩けないこと。避難時に最も適した靴は、底が厚いスニーカーです。



日頃から気象情報に関心を

8月から10月にかけては台風の接近が非常に多くなる時期です。台風発生から接近まで、上に紹介した市や気象庁がお知らせする気象情報等を常日頃から把握できるようにしておきましょう。また、家族で避難場所までの経路を一度歩いてみることも、備蓄食材の試食、離れ離れた場合の連絡方法などについても話し合う家族(防災)会議なども備えのひとです。

一方、近所での一人暮らし高齢者を把握しておくことも大切です。特に一人暮らしの方は、情報収集がうまくできない場合もあるため、避難所への避難時には声をかけ一緒に避難するようにしましょう。

防災では「自助」「共助」と言われますが、地域での防災訓練や情報共有、知識、意識の向上が被害を最小限に抑えることができる要因のひとつです。この時期、今一度防災について考え、近所づきあいが「近助」つきあいにねばりません。